

第 254 回 都市懇サロン レポ ー ト	都市懇サロン第 254 回 WEB 「交通とまちづくり ～立地適正化と地域公共交通を一体的に考える～」		
講 師	国土交通省総合政策局 交通政策課 企画室長 赤星 健太郎さん	開催日	令和 3 年 10 月 12 日(火) 18 : 00 ~ 20 : 00
講 師 プロフィール	1996 年 : 国土交通省入省 2006 年 : 関東地方整備局 都市整備課長 2012 年 : 福岡県 都市計画課長 2015 年 : 国土交通省国土政策局 地方振興課 企画専門 官 (以降、内閣府都市可視化調整官併任) 2017 年 : 同省都市局 都市政策課 企画専門官 2020 年 : 同省総合政策局 交通政策課 企画室長 (現職)		
お話の概要	<p>1. 交通とまちづくりの現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通を取り巻く危機的な対応すべく、第 2 次交通政策基本計画を策定 ・ 都市構造の変化 : 拡散、交通、地価、商業、空家などの変化 ・ 交通と都市構造の関係を俯瞰する (都市構造可視化計画の活用等) <p>2. 交通とまちづくりを一体的に考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市計画に公共交通軸を位置付ける必要性、具体的手法 (福岡県では、区域マスに「公共交通軸」を位置づけ、公共交通のサービス向上を目指す沿線を明確にし、沿線への集約・投資の誘導を図る) ・ 公共交通への意識をもち都市計画を変えることが必要。 ・ 都市計画と公共交通計画の一体化により、公共交通を維持・代替手段確保 (コミュニティバス等) するための赤字補填から、公共交通軸沿線に重点投資することで、逆に維持コストの抑制につなげる <p>3. 交通とまちづくりの合意形成のためのコミュニケーションツール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市構造可視化計画、ジオグラフ、3D マウスの紹介 ・ 都市計画ビジュアルコミュニケーター検定の紹介 ・ gtfs to kml (限定公開開始) 		
意見交換 の概要	<p>①コンパクト+ネットワークを推進する上で交通についても単体市圏域より広域圏域の区域マスで考えていく方がよいのか。 ⇒必ずしも広域で検討する必要はなく、都市の広がり方等の場所の特性に応じて検討すればよい。各市で検討する場合でも、事前に自治体間で広域的な視点でプレストし意識してもらうだけで、都市間の整合を図ることはできる。</p> <p>②新たな軸として公共交通軸を考えた時、既往の放射軸・環状軸等との幹線道路を中心とした都市軸との関係性はどのような考えればよいか。 ⇒福岡で関わった経験からは、既存の幹線道路の軸と公共交通の軸は整合がとれる傾向にあった。</p> <p>③GTFS をまちづくりの評価に活用している事例はあるか。 ⇒GTFS は旧 GIS に変換し都市計画データに取り込めるようになっている。日本では時刻表のデータまでを含めまちづくりに活用している段階にはないかもしれないが、スイスではエリアごとにサービスレベルを 4 段階設定し、時刻表データ取り込みながら計画をしている。</p>		
記録者の ひとこと	<p>デジタル技術を活用し都市構造と公共交通の状況を可視化することが、計画の検討だけでなく多様な関係者との対話にも活用できる等、今後まちづくりの実務の場面で活用していくことの可能性・有効性等を実感できた。 ≪都市懇サロン運営部会 委員 森川 禎二郎≫</p>		